

双海剣道会

「ヤ、メーン、メーン」
下灘小学校体育館で、威勢のいい響き声をごこだまするのは、双海剣道会の部員たち。現在、保育園児から成人まで約30余名の剣士たちが、週3回けいこに励んでいます。

双海剣道会の歴史は長く、昭和28年に当時の下灘公民館が中心となり、青年の健全スポーツと人間形成の道を学ぶ場として、『下灘柔剣道振興会』を発足。その後、昭和の大合併により双海町となったことから、昭和35年、『双海剣道会』として活動を開始しました。現在まで50年余り続いているこの剣道会では、昭和37年に初めて全国少年剣道大会に四国代表



とが決まっています。

双海剣道会は、主に少年剣士を育てることに重点を置いています。モットーは『礼儀』『あいさつ』『剣道は対人競技。試合に勝つことはもちろん大事なことです。が、人間として基本的な礼儀やあいさつを剣道を通して教え込んでいます。礼儀ができるということは、その人が素直であるということ。それで初めて剣道も強くなるのです。』と、指導者である戒井英雄さんは言います。練習を始める前には、全員で礼と黙想。ピンと張り詰めた空気が漂います。また、いざ練習が始まると、竹刀が相手の防具とぶつかり合う激しい音が響き、激しさが感じられま

として参加。その後4年間、全国大会へ出場し、いずれも団体で準優勝するといふ輝かしい成績を収めたほか、中学生の大会でも過去に4回、県総体で優勝するなど、活躍する選手や優秀な指導者を次々と輩出してきました。また、現在の部員も活躍しており、今年中学生は地区総体で優勝し、県大会へ出場するこ

逆に悩みもあるそう。近年、少子化の影響を受け、子どもたちの入部が減少していることがその一つと言います。「過疎化も手伝って、子どもたちが減少している地域なのですが、剣道会をできるだけ長く続けていきたいんです。現在、ほとんどの部員が下灘地区の人なのですが、もっといろいろな地域の人も入部して欲しいですね。」部員が多くなることで、お互いが切磋琢磨し、実力も備わってくることを期待しています。

最後に、双海剣道会の今後の目標を聞いてみました。「とにかく県内でトップに立つこと。」「伝統ある双海剣道会の名を再び高め、過去の栄光に追いつき追い越すことをめざし、部員一丸となって今日もがんばっています。」

す。礼儀に加え、その激しい練習に耐えてがんばることによって体力がつくことはもちろん、我慢強さや相手を思いやる心が養われ、まさに武道がめざす『心・技・体』が形成されるそうです。

このような剣道の魅力を戒井さんに聞いてみたところ、「剣道は『生現役』といわれ、競技を長く続けることができるスポーツ。年をとっても若い人と同等に向かい合えるんです。私もまだまだ若い人たちには負けない気でやっていますよ。また、練習や試合では大きな声を出すので、ストレッチ発散ばかりか集中力もつね。」ストレッチ発散ばかりか集中力もつき、勉強もできるようになるそう。実際に強い選手ほど学力も優秀だと言います。